

丹後の凸凹個性家 Kay

(丹後地域当事者サークル よさの大人の凸凹の会)

凸凹ニュースレター

HP で印刷用配布 <http://yosanodekoboko.aikotoba.jp/>

vol. 15

2018.10.16

発行人 Kay

大人の発達障害の当事者が「いきづらさ・はたらきづらさ」をかんじている方への
ピアサポート・セルフヘルプの取り組みを個人活動で行っています。

「凸凹目線で考える地域のミライ」# 2

一緒に心からの「対話」をしませんか？

わたくしがこのような取り組みを始めてはや1年半になります。

この1年半、何かを変えたいとか、何か特別なことをしたいと思って取り組んでいたわけではありません。まったくそのような思いがなかったかといえどどうかな？というところではありますが、わたくしが取り組んでいることは「お互いが困っていることに耳を傾け、寄り添い合う」といったピアサポートという当たり前のことなのです。

しかしながらその当たり前さえも出来ていないのが現状です。第一には個人情報保護の観点から難しい、さらに発達障害などはオープンにしづらい風潮などもあり、さらに難しくしています。

現状に満足できていれば、このような取り組みをあえてする必要はないのですが、たった1年半では状況が良くなっていく状況になく「非常に困って」います。時間もかかることですし、声をあげられる人ならまだいいのですが、声をあげていても現状が一向に良くならなくなると、声をあげ

られない人はさらに苦しい中で、孤立されておられるのではないかと心が痛みます。

顕在化していないから問題でないのではなくて、顕在化していないからこそ問題であり、そこに手を差し伸べていかないと本当に深刻な事態に陥ります。そうなる前に手を打っていく必要があるのです。

今必要なのは、心と心を繋ぐ「対話」です。「対話」は「気づき」を生みます。なあなあ「対話」ではいけません。心からぶつかりあう「対話」が必要なのです。

一緒に心からの「対話」をしませんか？

損得勘定とか仕事、立場を抜きにお互いが心から向き合う「対話」の場を作り、「気づき」から「行動」を起こさなければ、今の状況は一向に良くなりません。

皆がこのことを自分事ととらえ、危機感をもって取り組むときは今です。わたくしも「対話」の場を持ち、みなさんと心を通わせたいと思っています。日程等が決まり次第、改めてご案内させていただきます。

どうか、マイノリティの方をはじめとした現役世代に向けて、一肌脱いでいただけませんか？よろしくお願いたします。

Eメール:yosano-dekoboko@outlook.jp FB:[@yosanodekoboko](https://www.facebook.com/yosanodekoboko)

Kayから独自の呼びかけ 10月31日は自閉症啓発カラー「青（ブルー）」を身にまとい、京丹後市の『みんなで運動しようDay』に参加しようDay！